

誠愛薬局DIニュース 3月号



桜も咲き始め、本格的な春の訪れを感じるようになりました。今年は例年に比べて大量の花粉や大気汚染物質などの飛散が話題となっています。
今回は花粉症に用いられるアレルギーのお薬についてお話しします。

■花粉症治療のお薬

ひとえに花粉症の薬といっても、
飲み薬、点眼薬、点鼻薬と様々です。
それぞれの薬の特徴は右表の通りです。

種類	特徴
経口薬(飲み薬)	花粉症の症状全般に効果があります。 眠気などの副作用がでることがあります。
点眼薬	目に直接投与します。 全身への副作用が少ないものです。
点鼻薬	鼻の中に直接スプレーします。 鼻づまりや鼻の炎症を抑え、全身への副作用が少ないものです。

また、薬の効き目(薬効)別に分類したものが下の表になります。

薬の分類	代表的な商品名	販売されている剤型
抗ヒスタミン薬	医療用:アレロック、クラリチン、 エピナジオンなど	経口薬、点鼻薬 点眼薬
	市販薬:アレグラFX、コンタックZ、 ザジテンALなど	
メディエーター遊離抑制薬	医療用:ノスランなど	経口薬、点鼻薬 点眼薬
	市販薬:アイフリー、エージーアイズなど	
抗ロイコトリエン薬	医療用:プラナルカストなど	経口薬
血管収縮薬	医療用:当院採用なし	点鼻薬
	市販薬:ナンピンMなど	
ステロイド薬	医療用:セレスタミンなど	経口薬、点鼻薬 点眼薬
	市販薬:ナザールARなど	
漢方薬	小青竜湯	

表にある通り、現在、医師の診察を受けずに薬店にて購入できるお薬にも、医療用と同種類の成分を使用したお薬が増え、花粉症治療の選択肢が広がっています。

もちろん、**市販薬でも医療用医薬品同様、副作用が起こることがあります。**

購入にあたっては、薬店にて薬剤師へご相談ください。

■アレルギーMEMO -PM2.5について-

花粉症のシーズンが本格化するにつれ、より飛散が騒がれるようになってきた「PM2.5」ですが、どういったものかご存知ですか？

PM2.5とは大気中に浮遊する小さな粒子のうち、粒子の大きさが $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}=1\text{mm}$ の千分の1)以下の非常に小さな粒子のことで、**特定の化学物質のことでありません**。物の燃焼などによって直接排出されたり、大気中でガス状の大気汚染物質が光やオゾンと化学反応することで生成されたりします。

PM2.5は粒子の大きさが非常に小さい(スギ花粉の1/12以下)ため、肺の奥深くまで入りやすく、喘息や気管支炎などの呼吸器系疾患の危険性が高まるのではないかと考えられています。また、肺がんのリスクの上昇や、循環器系への影響も考えられますが、詳しいことはまだわかっていません。

また、この季節はアレルギー物質としてよく知られる「黄砂」も飛散しており、**これらの影響で花粉症の悪化が懸念されています。**

環境省や各自治体のサイトなどで、毎日の飛散量がチェックできます。これらのアレルギー物質の飛散量が多い日には不要不急の外出を避けるなど、悪化を防ぐ工夫をしましょう。